

校長先生の初恋物語

第30話 さらばミッタ

オクラホマミキサーが終わって、給食を食べて、昼休みは外で遊んで、その後、そうじの時です。いつもは運んでもらえないアマーラさんのつくえといすも、ふつうに男の子が運んでいました。

アマーラさんへのムシは、あっという間になりました。みんな、どうしてこれまでアマーラさんをさけてしまったのか、分かっていないようでした。その男の子たちのきゅうげきな変化は、女の子たちにも伝わっていました。とっくんは、ダンプさんから聞かれました。

「とっくん、最近、男の子たち、変わったと思わない。」

とっくんは「知らないよ。」と、とぼけました。ミッタのことは、とっくん、ちん君、アマーラさん、コージ君だけのひみつです。

となりの席のよしこさんは、ずっとおこっていて、とっくんとなかなか口をきいてくれませんでした。オクラホマミキサーで、とっくんがダンプさんのところに行ってしまったことに、しっとしていたみたいです。とっくんは困っていました。ダンプさん、よしこさん、アマーラさん、3人の女の子のことが同時に好きになっています。「しょうらい、結婚するとしたら、だれに結婚をもうしこめばいいんだろう。」と、気が早いですが、真剣になやんでしまいました。

ミッタの作戦4。それは、「オクラホマミキサーで、アマーラさんと、ちゃんと手をつなぐ。」でした。ちん君はすごい。本当にすごい人です。それに、コージ君もすごい。アマーラさんもすごい。とっくんは、ミッタの1人でよかったと、つくづく思いました。



アマーラさんは、その後、笑顔がとっても増えました。みんなと話すことも増えました。アマーラさんの動物の話はとってもおもしろくて、アマーラさんのところには、男の子も女の子も、わんさか集まるようになりました。しいく当番の時には、アマーラさんに来てもらって、きょうぼうなクジャクのめんどうも見てもらいました。学校帰りにガブに追いかけてしまう子も、アマーラさんのおかげでいなくなりました。

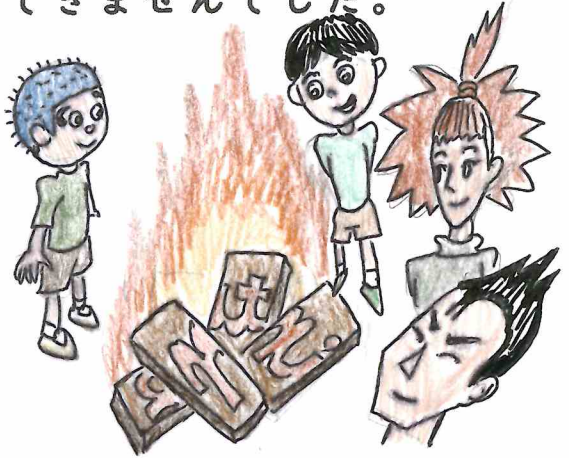
アマーラさんがクラスの人々と仲良くなったある日のこと、ちん君がミッタの仲間をお寺によびだしました。そこでちん君は、こんなことを言いました。

「これで、ミッタはかいさんだね。」

コージ君、アマーラさんは残念がりました。とっくんは大反対しました。でも、ちん君の決意を変えることはできませんでした。

「もうミッタは必要ないよ。いつまでも、4人だけで固まってちゃだめだからさ。もう、アマーラさんはだいじょうぶ。これからは、4人の友情は変わらないさ。これからは、4人だけじゃなくて、もっともっとたくさんの友達を作っていこう。そのために、ミッタがいつまでも残っているのは良くないよ。」

まったく、ちん君という人は、どこまですごい人なのか。そんなけいします。4人は、ミッタのあかしを燃やしました。こうしてミッタは、解散しました。



平和な日々が続きました。5年2組はぜっこうちょうです。5年2組だけではありません。マンモス小学校全体が、とても平和に感じました。ところが、そんなマンモス小学校の平和がとつぜんくずれてしまうのです。

ある日の帰りの会のことです。全校に、きんきゅうの放送が流れました。放送の声は、教頭先生でした。教頭先生が放送した内容はこれまできいたことがない、とんでもないものでした。

つづく

次回予告



マンモス小にあらわれたばけもの